



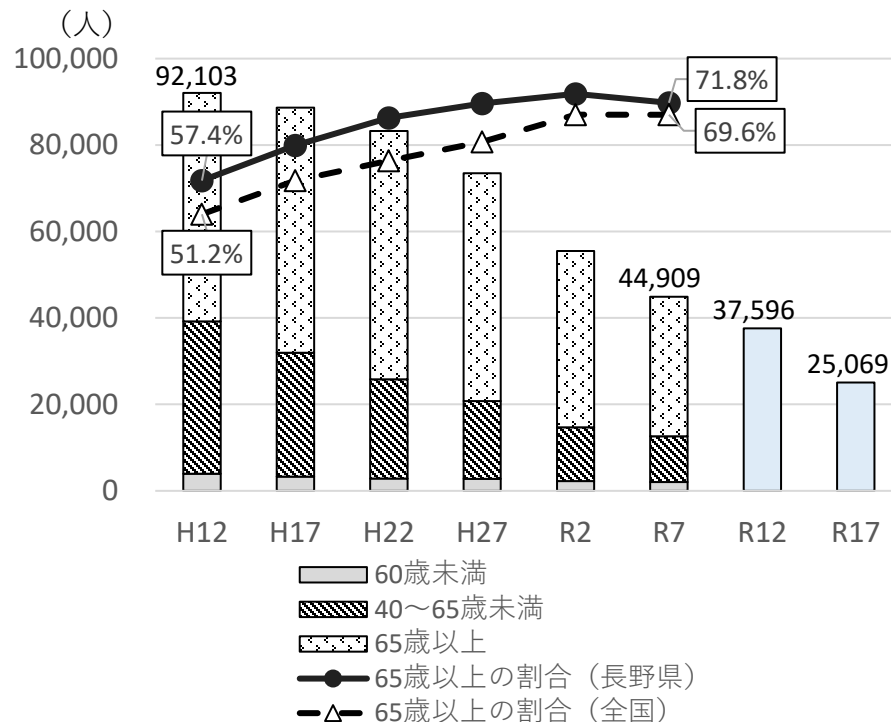
○長野県農業を取り巻く情勢

1	農業者の状況	1
2	農地集積の状況	4
3	農地・農業水利施設の整備状況	5
4	農産物産出額の状況	6
5	日本一を目指す果樹の状況	7
6	有機農業の状況	8
7	農産物の輸出の状況	9

1 農業者の状況：基幹的農業従事者数等

- 基幹的農業従事者数は年々減少しており、R7年では44,909人。このままの傾向が続くと、R12年には4万人を下回る見通し。
- 65歳以上の割合（高齢化率）は、H12年の57.4%から、R7年には71.8%に大きく上昇。全国平均69.6%を上回っている。
- 経営面積5～100haの大経営規模経営体数は増加。
- 雇用労働総のべ人日は全国、長野県とも増加。

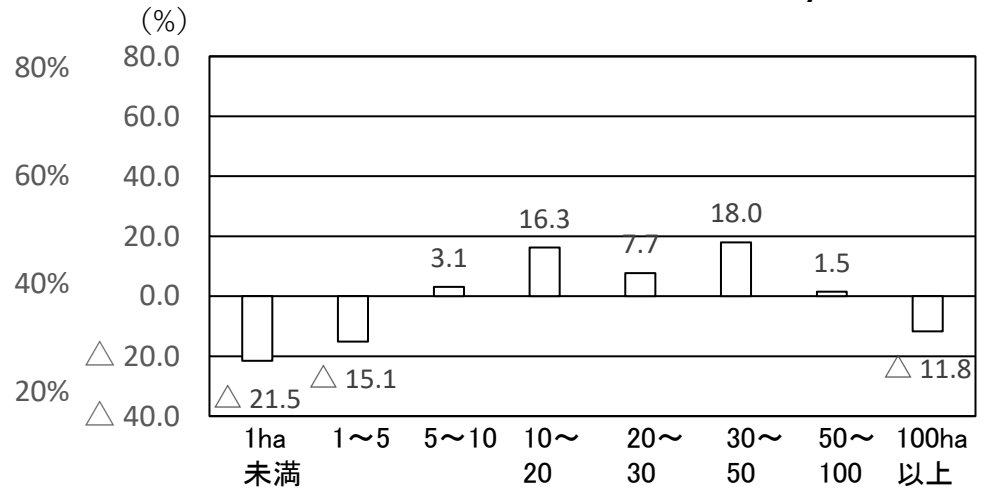
基幹的農業従事者数（個人経営体）と65歳以上の割合



（出典）農林業センサス（将来予測値は、重回帰分析（トレンド）による推計値）

※基幹的農業従事者とは、自営農業に主として従事した世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者をいう。

経営面積規模別農業経営体数の増減率（R7/R2）



（出典）農林業センサス

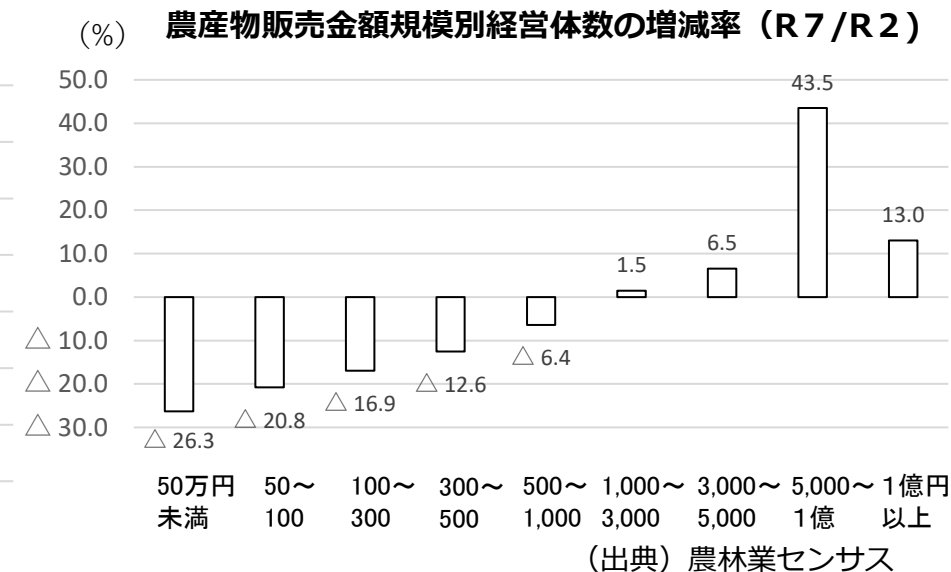
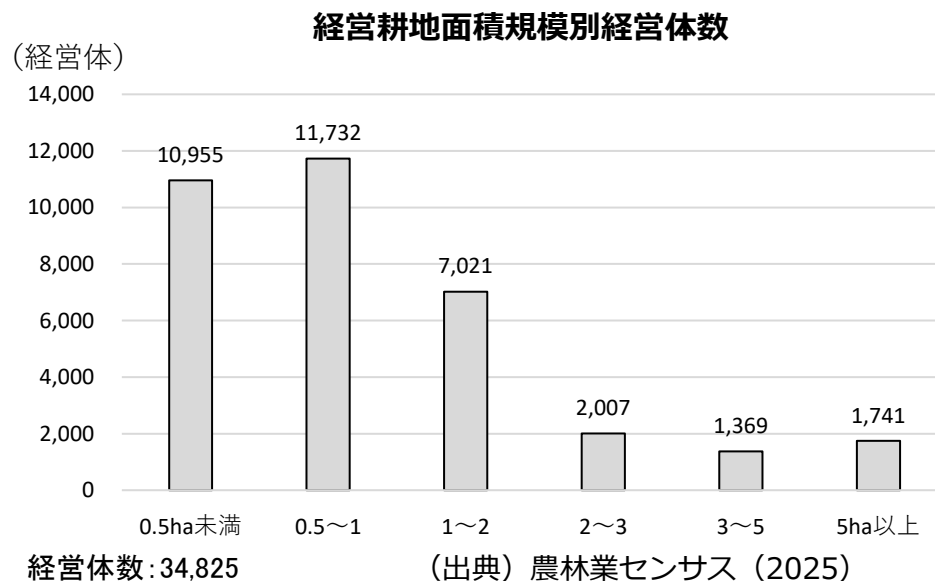
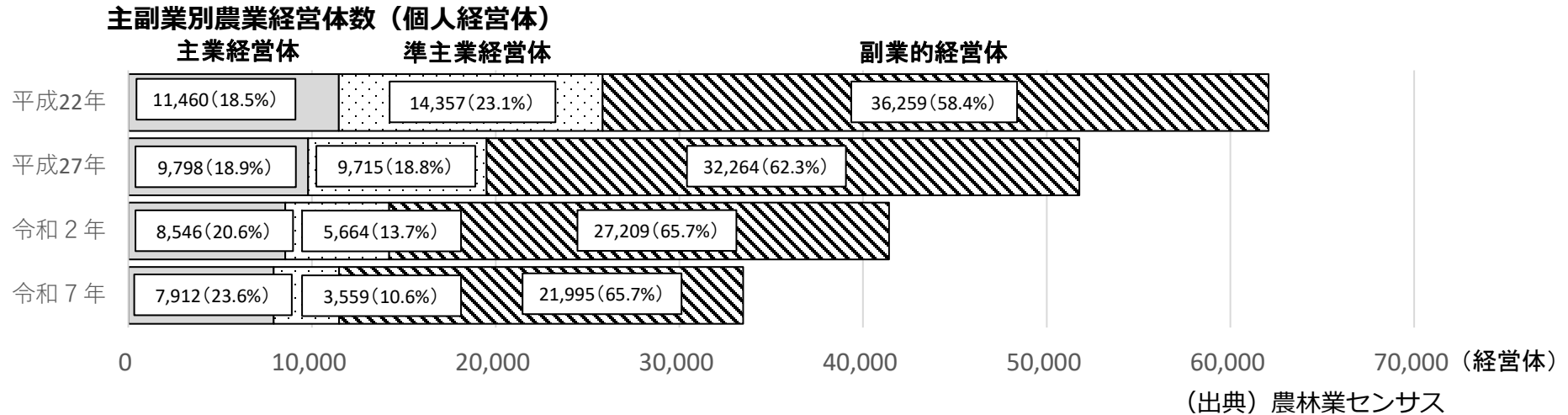
農業経営体数における雇用労働者数の推移

区分	H22	H27	R2	R7
常勤雇用者数(人)	5,530	10,836	10,104	13,394
臨時雇用者数(人) (手伝い等含む)	98,850	69,152	44,276	51,064
雇用労働総のべ人日(人日)	2,632	3,165	3,216	4,063
参考: 全国 雇用労働総のべ人日(千人日)	65,748	68,036	53,250	65,082

（出典）農林業センサス

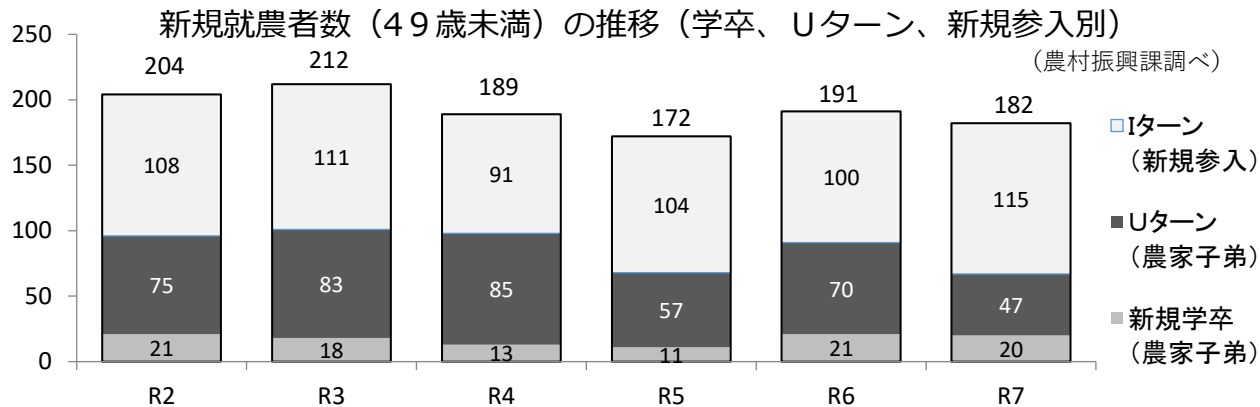
1 農業者の状況：農家数

- 個人経営体に占める割合（令和7年）は、主業経営体23.6%、準主業経営体10.6%、副業的経営体65.7%であり、主業経営体の割合が増加。
- 経営耕地面積や販売金額の少ない小規模な経営体が多い一方、販売金額1,000万円以上の経営体は増加。



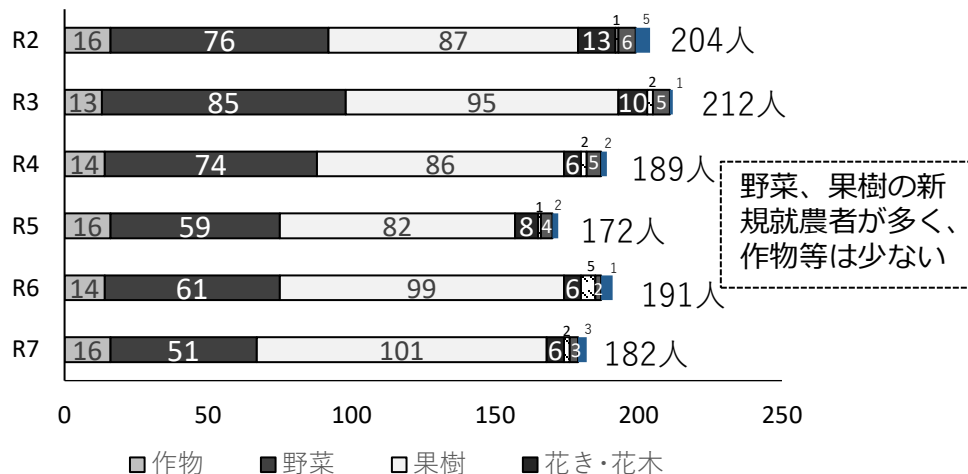
1 農業者の状況：新規就農者

- 49歳未満の新規就農者は近年では200人前後となっている。
- 新規就農者の内訳は、野菜、果樹が多く、作物（米、麦等の土地利用型）等は少ない。
- 県農業大学校卒業生の就農率は、概ね50%前後で推移。（R7年度就農率：55.3%）

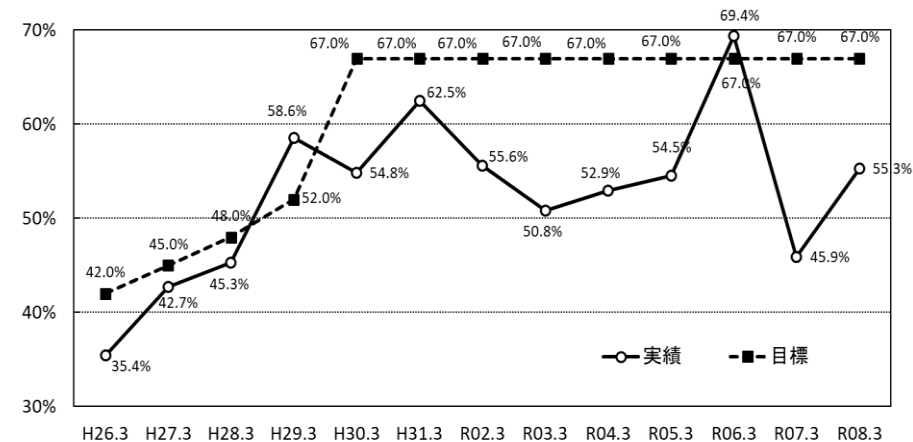


- ・Uターン（農家子弟）の就農が減少傾向にある
- ・Iターン（新規参入）の割合が増加している

作目別新規就農者数（49歳未満）の推移
（農村振興課調べ）



農業大学校卒業生の就農率の推移

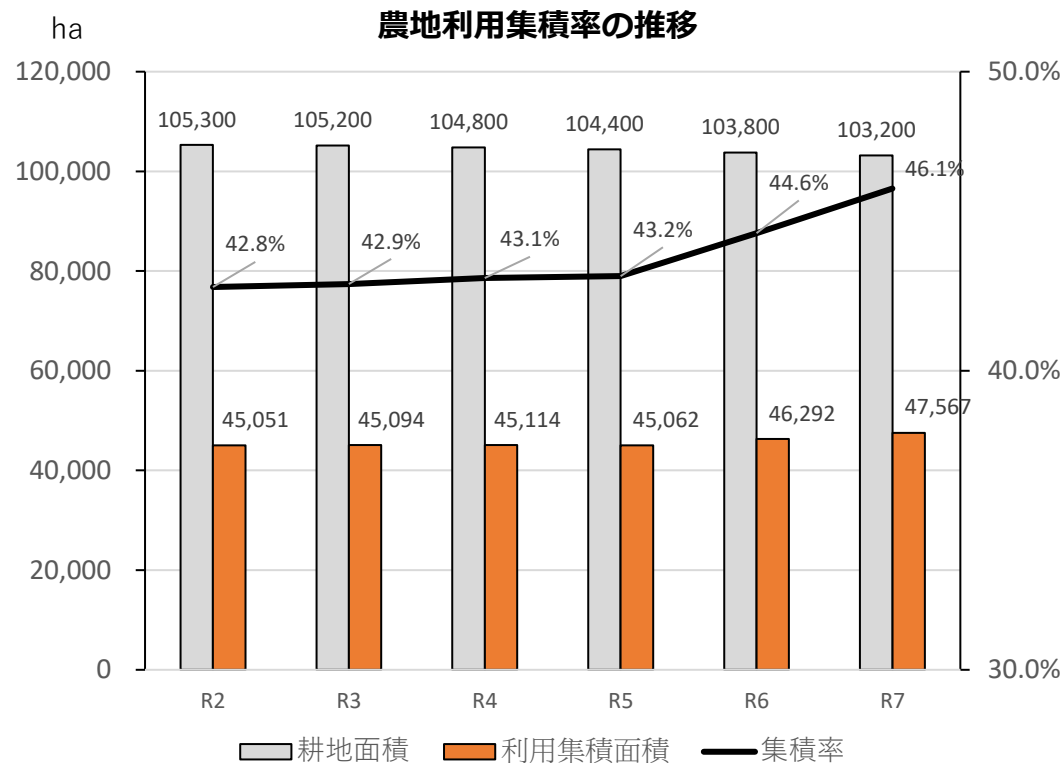


$$\text{就農率} = \frac{\text{自家就農} + \text{法人就農} + \text{継続研修}}{\text{卒業者数} - \text{内部進学者}}$$

（出典）農業大学校資料

2 農地集積の状況

- 令和7年度の中核的経営体（認定農業者、基本構想水準到達者、認定新規就農者、集落営農組織）への農地集積は46.1%と徐々に増加。
- 水田地帯は他に比べ集積率が高いものの、高止まり状況。
- 園芸作物地帯、山間農村では、集積率が増加傾向。



（農村振興課調べ）

地帯別の集積率 (%)

区分※	H29	R 2	R 7
水田地帯	53	54	56
園芸地帯	37	44	48
都市近郊	28	33	36
山間農村	25	27	34
県計	39	43	43

※各農業地帯区分で該当市町村の耕地面積、集積面積を整理し算出（農村振興課調べ）

3 農地・農業水利施設の整備状況

- 水田における30a以上の区画整備率は26%、50a以上は2%（全国平均13%）にとどまる
- 受益面積100haを超える基幹的農業水利施設の6割以上が耐用年数を超過し、うち2割は早急な対策が必要
- 施設管理を省力化する「水門の自動化・遠隔化」の取組はR3～R7にかけて約2倍に拡大

【農地の整備状況】

○都道府県別の水田整備状況(R5末時点)

都道府県名	水田面積 (ha)	整備済面積(ha)			
		30a以上	整備率	50a以上	整備率
全国	2,319,000	1,606,922	69%	292,572	13%
宮城県	101,700	73,995	73%	34,562	34%
北海道	220,700	217,866	99%	74,578	34%
秋田県	127,700	90,729	71%	34,917	27%
新潟県	147,800	96,792	66%	29,203	20%
佐賀県	41,400	35,949	87%	5,204	13%
愛知県	40,800	30,152	74%	4,966	12%
...	...	...	...	...	...
※長野県	50,700	13,060	26%	1,037	2%

出典：農業基盤情報基礎調査（農林水産省）
※農地整備課調べ

全国41位

【水利施設の整備状況】

○基幹的農業水利施設の耐用年数の超過状況(R5末時点)

	施設延長 (km)	うち耐用年数超過
全国	52,057	25,766 (50%)
※長野県	1,291	850 (66%)

6割以上の施設が
耐用年数を超過

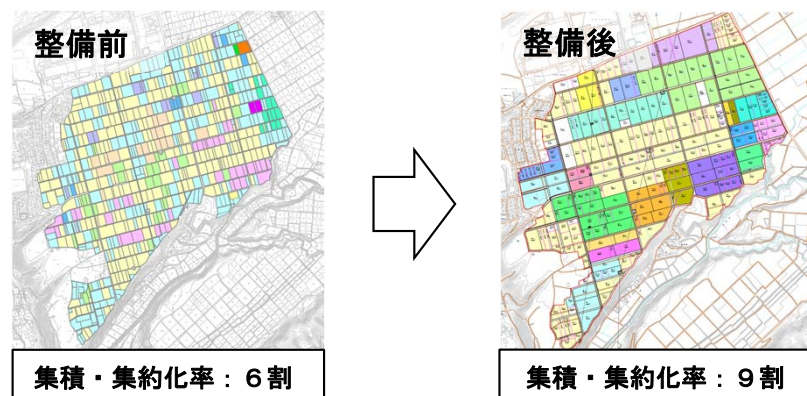
出典：農業基盤情報基礎調査（農林水産省）
※農地整備課調べ

○機能診断結果に基づく優先度

施設延長(km)	経過観察	対策を検討	早急な対策が必要
1,291	497 (38%)	527 (41%)	268 (21%)

約2割の施設で早急な対策が必要

《ほ場整備による農地の区画拡大と集積・集約のイメージ》



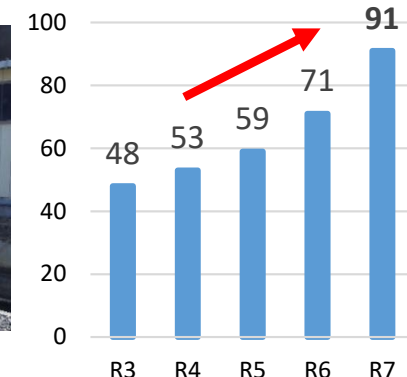
経営体育成基盤整備事業の整備イメージ（東原地区・伊那市）

《水門の自動化・遠隔化の取組》



自動化した水門
（六ヶ郷地区・千曲市、坂城町）

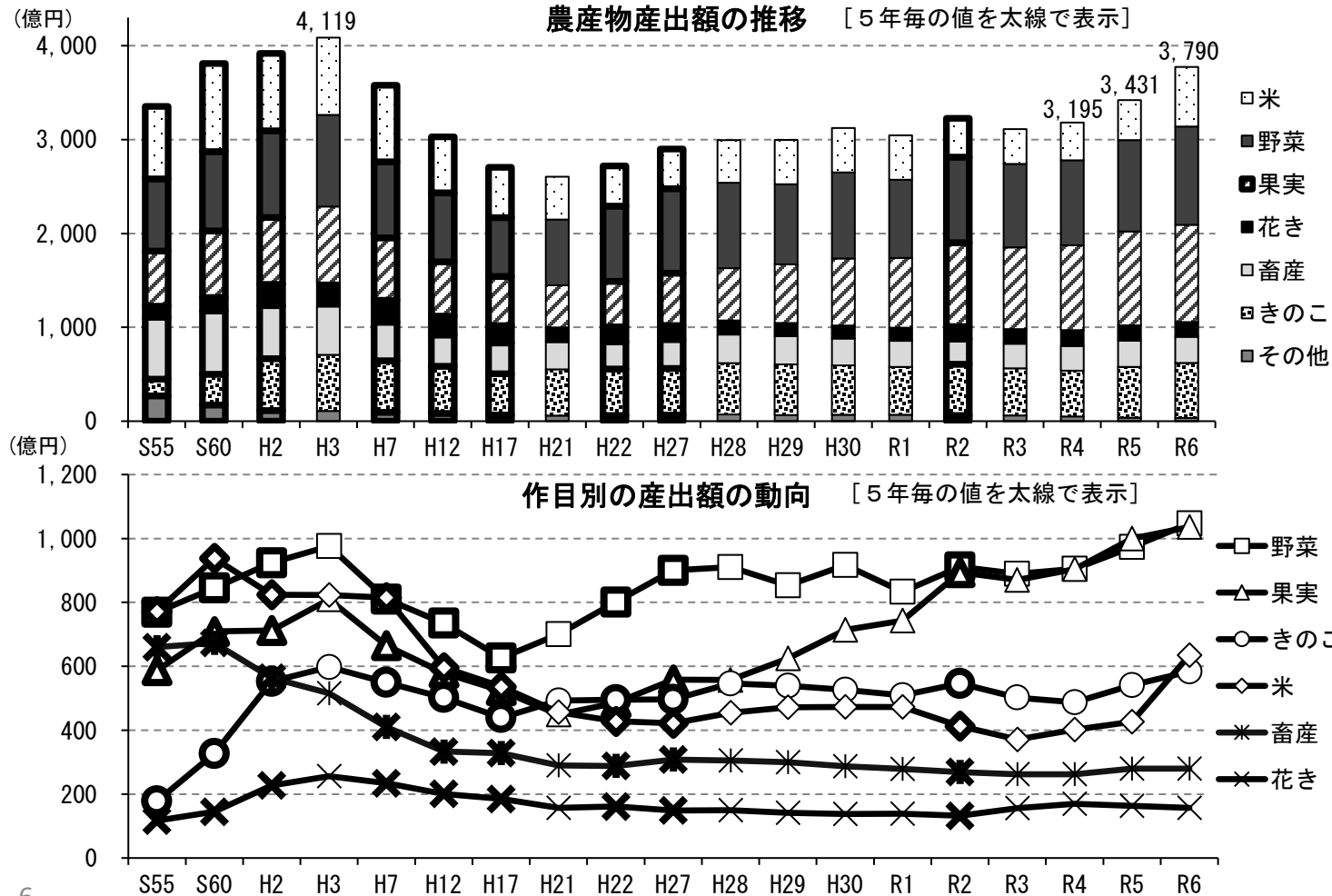
水門を自動化・遠隔化した箇所数の推移



（農地整備課調べ）

4 農産物産出額の状況

- 農産物産出額はH3をピークに減少し、近年では横ばいとなっていたが、直近5年間では3,000億円を超えて増加傾向にある状況。
- 最近では、米の相対取引価格が大幅に上昇した他、野菜や果実、きのこの価格が堅調に推移し産出額が増加。
- 産出額20億円以上の品目は、令和6年産で31品目に上る。



産出額20億円以上の品目 (R6)

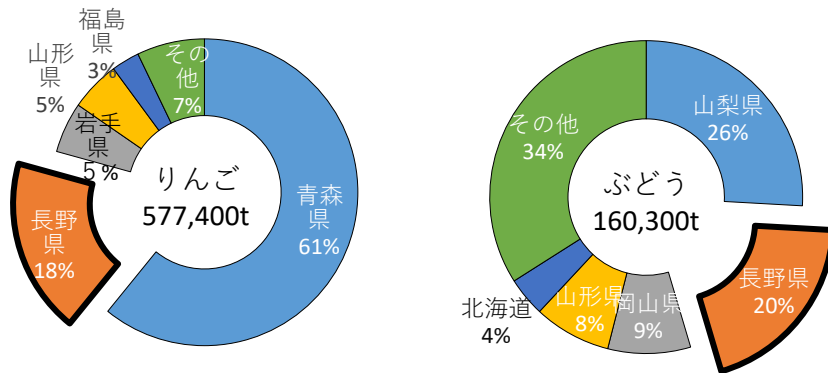
品目	生産額 (億円)	全国順位
野菜	レタス	262 1位
	はくさい	167 2位
	キャベツ	50 8位
	ブロッコリー	51 4位
	ねぎ	50 10位
	きゅうり	35 15位
	トマト	44 17位
	セルリー	30 1位
	やまのいも	20 5位
	すいか	32 7位
	いちご	23 24位
	かぼちゃ	24 2位
果実	ぶどう	494 2位
	りんご	348 2位
	もも	65 3位
	日本なし	55 4位
	すもも	20 2位
きのこ	ぶなしめじ	204 1位
	えのきたけ	205 1位
	エリンギ	86 1位
	生しいたけ	40 2位
	なめこ	20 2位
米	米	635 13位
	生乳	108 12位
	肉用牛	68 30位
	豚	47 30位
	鶏卵	20 38位
畜産	ブロイラー	20 26位
	アルストロメリア	20 1位
	カーネーション	20 1位

(出典) 農林水産省「生産農業所得統計」
※きのこは農林水産省「林業産出額」

5 日本一を目指す果樹の状況

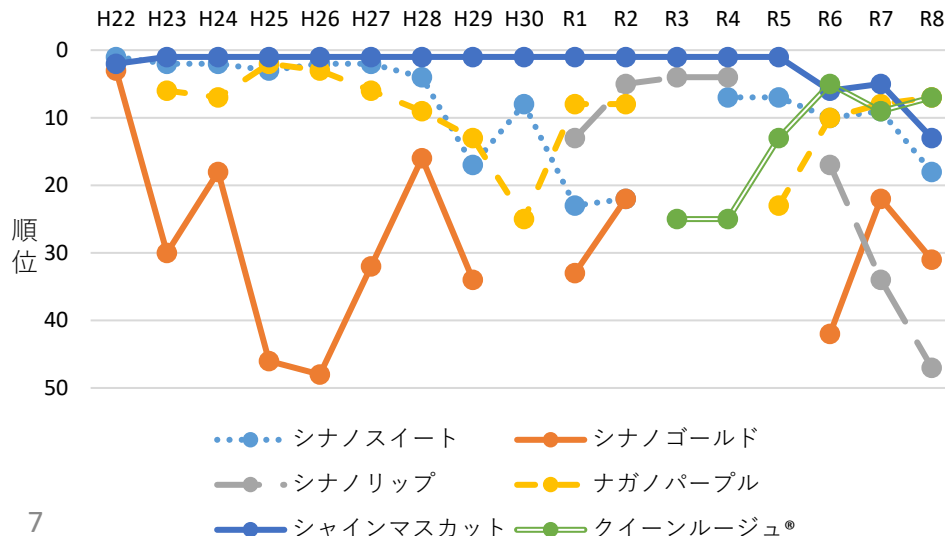
- りんご、ぶどうの生産量はともに全国第2位。
- りんごでは「シナノスイート」「シナノゴールド」「秋映」、ぶどうでは「ナガノパープル」「クイーンルージュ®」等の県オリジナル品種等の栽培が行われるとともに、消費者から高い評価。

りんご、ぶどうの生産量の全国シェア(R7)



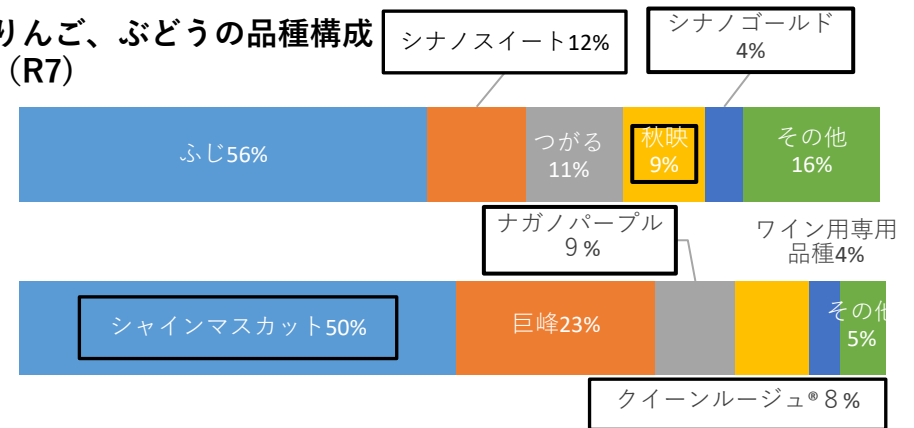
(出典)農林水産省「作況調査」

果実の売れ筋ランキング



(日本農業新聞調べ)

りんご、ぶどうの品種構成 (R7)



(出典)農林水産省「特産果樹生産動態等調査」

オリジナル品種の価格動向

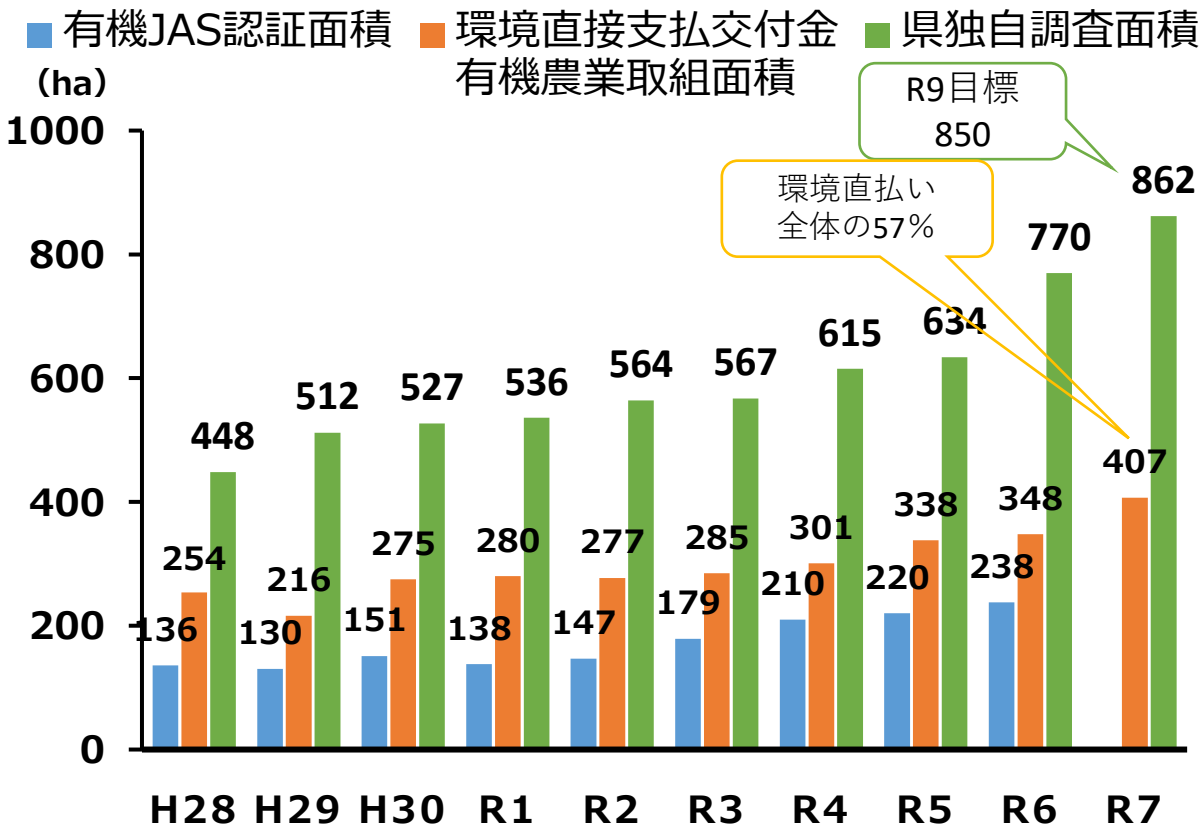
(円/kg)

品 種			R1~R3 平均単価	指数	R5~R7 平均単価	指数
りんご	オリジナル	秋映	332	114	473	124
	オリジナル	シナノスイート	336	116	494	129
	オリジナル	シナノゴールド	302	104	410	107
	オリジナル	※シナノリップ	475	164	434	114
ぶどう	比較対象	王林	290	100	382	100
	比較対象	シャインマスカット	2,109	174	2,083	139
	オリジナル	ナガノパープル	1,727	142	2,036	136
	オリジナル	※「クイーンルージュ®」	2,874	237	2,426	162
なし	比較対象	巨峰	1,214	100	1,497	100
	比較対象	幸水	467	100	517	100

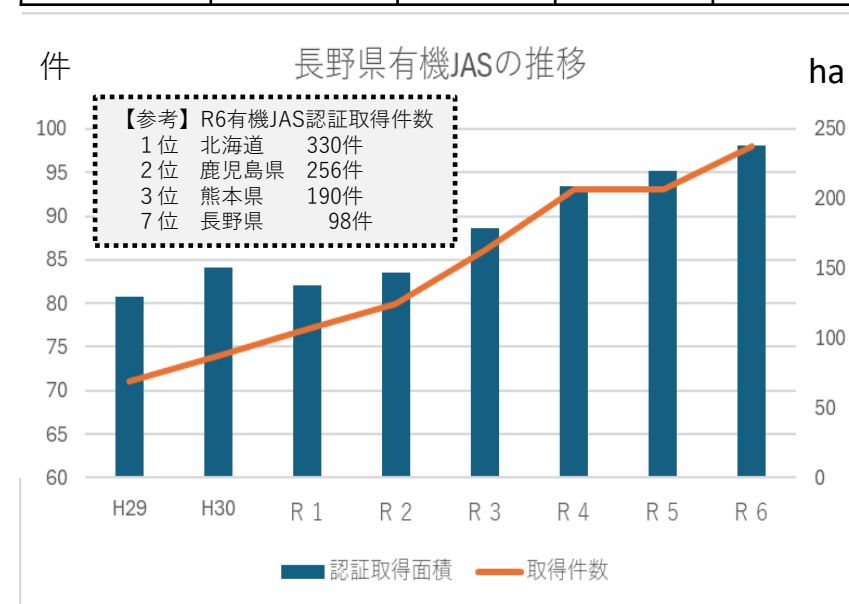
※シナノリップはR2,R3実績 「クイーンルージュ®」はR3実績 (園芸畜産課調べ)

6 有機農業の状況

- 県内の有機農業取得面積は、令和9年度の目標面積を上回る862ha（令和7年度県独自調査面積）。
- 有機JAS認証の取得面積は「普通畑」で約6割を占め、「田」は35%、「樹園地」は4%程度。
- 有機JAS認証事業者数は2,960件（団体含む）。長野県は98件で全国第7位(令和6年度末)。



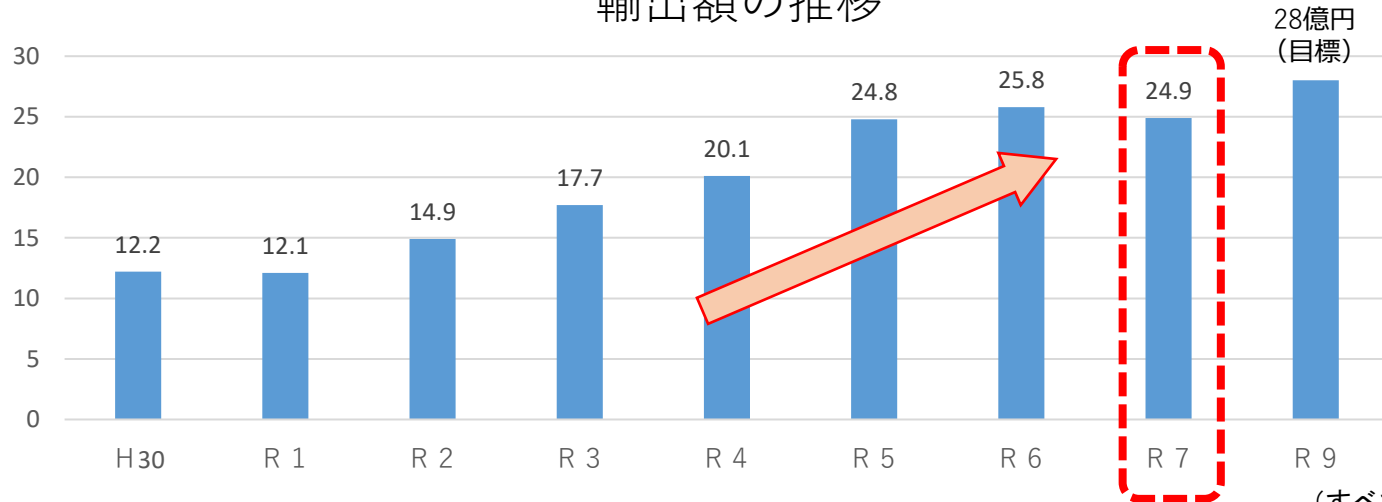
項 目	基準年 (2021)	実績 (2024)	最新 状況等	目標 (2027)
オーガニックビレッジ宣言をした市町村数	-(2023 : 4 か所) 辰野町、松川町、飯田市、飯綱町	6 か所 +佐久市、伊那市	7 か所 +長和町	10か所



7 農畜産物の輸出状況

- 県産農産物の輸出額について、令和7年産の輸出額は24.9億円となった。
- 輸出国別の輸出額では台湾と香港で全体の約80%を占め、品目別の輸出額ではぶどうが48%と最も多い。

輸出額の推移



(すべて農産物マーケティング室調べ)

R 7 輸出国別輸出額 (百万円)

	輸出額 (構成比)	R6	前年比
台湾	1,338 53.8%	1,285	104%
香港	640 25.7%	782	82%
アメリカ	155 6.2%	119	130%
シンガポール	65 2.6%	105	62%
その他	291 11.7%	292	100%
合計	2,489	2,583	96%

R 7 品目別輸出額 (百万円)

	輸出額 (構成比)	R6	前年比
ぶどう	1,194 48.0%	1,340	89%
米	331 13.3%	392	84%
市田柿	327 13.1%	289	113%
牛肉	246 9.9%	219	112%
もも	130 5.2%	158	82%
花き	50 2.0%	40	125%
きのこ	39 1.6%	58	67%
その他	172 6.9%	87	198%
合計	2,489	2,583	96%